



異文化交流論

コップの外に出よう！
池や川を出て、海にこぎ出そう！

担当者： 岩野雅子



研究領域：異文化交流や異文化理解、異文化間教育やトレーニング、国際理解教育等

面接時間：必ずメール（iwano@fis.ypu.jp）でアポをとり、事前に相談に来て下さい。

場合によっては、オンラインでまとめて説明会の設定をします。

今年度のシラバスを閲覧し参考にしてください。

異文化交流論とは

異文化交流に関する諸課題を取り扱います。例えば、異文化理解・寛容性・適応・受容や異文化間コミュニケーションなど。異文化との遭遇の場としては、海外旅行、スタディツアー、海外への留学や就職、日本への留学・就職・定住などがあるでしょう。従来は国際交流や国際協力などの場における異文化接触の問題が多く取り上げられていましたが、最近では国内や地域における日常生活レベルの多文化共生にかかわる諸課題が取り上げられるようになっていきます。

専門演習の進め方

専門演習Ⅰではテキスト、参考文献、資料等を読み、発表や討論を通して異文化交流に関する理解を深めます。また、各種大学生コンテストに出場するための企画書づくりを行います。過去には「大学生観光まちづくりコンテスト」や「キャンパス・ベンチャーグランプリ」などに応募したり出場したりしています。異文化交流の手段の一つである国際語としての英語は自主学習で行い、TOEIC 受験予定日と結果を定期的に確認します。

専門演習Ⅱでは4年次になって自分が行う卒業研究のテーマを考え、実際にフィールドに出て実体験を通じた理解を進めた上で、文献考察も進めて研究計画書（案）を作成します。

2年次に「フィールドワーク実践論」「地域実習」「グローバルネットワーク論」などを履修し、2～3年次に英語で開講される科目を二つ以上履修してください。

実地体験に基づく理解について

異文化交流論研究室では、過去に国内外へのスタディツアーを開催してきました。学生とともに過去に訪問した国は、タイ、ベトナム、シンガポール、インドネシア、カンボジア、香港、台湾、韓国、イギリス、ハワイなどです。国内では長崎県対馬、沖縄などです。

海外スタディツアーについては、現在は地域実習で行っています。海外に出た経験のない人は、海外語学文化研修・海外フィールドワーク・交換留学・地域実習などを通して、大学時代に必ず海外体験をもってください。異文化交流には体験しなければ分からないことがたくさんあります。大学生ならではの学びの機会を利用するための自己投資ですから、ゼミに入ろうと思う人は事前に計画的に準備してください。

履修の条件

研究室に所属する学生には、次のことを義務づけます。

- ① **3年生終了時までに英語（中国語でも韓国語でもよい）の本学スタンダードをクリア**すべく自主学習を行い、勉強会などに参加して、検定試験を計画的に受験すること。研究室では3年次終了時までに TOEIC650 点以上、中国語・韓国語を選択した人はこれらの目標値に加え TOEIC550 点以上となります。当初と前期終了時、後期開始時と終了時の4回ほど検定結果を提出していただきます。このため、本研究室に所属が決まった学生さんは、2年次の春休みの過ごし方（語学の自主的な学習）について計画的に時間を有効に使ってください。
- ② 3, 4年生合同の交流会・研修会を各学期に1回ずつ開催します。3年生が企画します。
- ③ **研究室への希望者が多い場合は、自動的に TOEIC の得点の高い者から選抜します。**

今までの卒論テーマ

「言葉の教育」、「異文化間コミュニケーションのトレーニング」、「スタディーツアー・ワークキャンプについての考察」、「大島郡にとってのハワイ・ハワイ移民を起源とする国際交流」、「海を渡る子どもたち－国際養子縁組における子どもたちのアイデンティティ」、「イギリスと玖珂町の国際交流－中高生の日英交流」、「和ブーム」「異文化接触によるフラの文化変容」、「国際マナーとプロトコール」、「動物愛護の精神－日英の比較」「Welcome to Japan：山口県の国際観光の現状と課題」、「フェアトレード：山口県での試み」、「在日留学生の卒業後の進路について」、「日本人の幸福論－LOHASやスローライフなどの新しいライフスタイルについて」、「現代韓国の日本語教育」、「山口県のNGO活動－タイ北部少数民族をめぐって」、「NGO団体の職員とは－タイとフィリピンの事例」、「ニューカマーの教育：岡山のブラジル人学校」等

2020 年度の卒業研究のテーマ：「米軍基地がある地域からみる多文化共生政策に対する意識と取り組み」、「「食」を活かした地方の観光まちづくりの可能性－『美食の街』サン・セバスチャンを例に－」、「大学生から見た子ども会～調べて比べて体験してみよう～」、「観光列車による地域活性化－福岡県を事例に挙げて－」、「山口県の食と旅をつなぐフードツーリズムとフードツーリズムマイスターの役割」、「日本における外国人労働者について－東南アジアを中心に－」、「生涯学習としてのスポーツボランティア」、「観光資源としての文学館の活用について～山口県内の文学館を例に～」、「外国人材の雇用～高度外国人材の問題と課題～」

演習のアルバムから



異文化交流は、実際に体験して学ぶプロセスが大切です。地域の国際交流の場に出て行き、実際

の活動に参加させてもらうことを通して、様々な視点を得て、多角的に柔軟に物事を考えるとともに、社会で求められている一般的な行動の仕方やマナーについて学びます。

現場に出る前には、地域のNGO団体の方々とともに勉強会を開催します。大学生だから許される範囲はありますが、海外、特に途上国の現場を知る地域の方々の目は厳しいことを覚悟しましょう。スタディツアー参加後や、卒業研究関連のフィールドワーク実施後は、関係者に必ずお礼状を出します。



海外では様々な団体を訪問し、ミーティングを行ってきました。英語でコミュニケーションできる力があることが必要です。事前準備を行い、問題意識をもって臨まなければ、相手の時間を無駄にするだけになります。シャープな質問ができた時は、相手や仲間から称賛されます。みんなの後についていくだけという行動パターンを変えましょう。失敗を恐れず、他人に頼らず、自主・自立して「自分の力」が問われる瞬間を体験し、みんなの「目」が自分に注がれる緊張感と自分一人で判断する孤独に耐えましょう。



海外の大学生はものすごく勉強します。何のために学ぶのか、何のために大学に来ているのか、海外の大学生に触れることで考える機会としてほしいと思います。

専門演習を選択する人へ

少人数での専門演習（1年間）、卒業演習（1年間）という長い期間を共有することになります。演習は自主的な学びの時間となります。何をすればよいのかの最低限のものは提示しますが、それを超えた自主的な学び合い、支え合いの姿勢を求めます。

ここで紹介した学びのルールを理解した上で、演習を選択するようにしてください。

なお、専門演習を選択した人は、ここに示した事柄を理解しているものとみなして演習を開始

します。

4月の第1回演習時に、外国語の検定結果をもってきてください（英語・中国語・韓国語の内、自分が選択した言語について。中国語・韓国語を選択した人は英語も必要です）。